

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 学 術 )	氏名 Author	MOSHREKA ADITI HUQ
学位授与の要件	学位規則第 4 条第①・2 項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation Counteracting Civil Intelligentsia of Bangladesh: An Understanding through the Relational Social Movements			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member			
主 査 Committee Chair	准教授 中矢 礼美	印 Seal	
審査委員 Committee	教授 片柳 真理		
審査委員 Committee	教授 関 恒樹		
審査委員 Committee	教授 清水 欽也		
審査委員 Committee	教授 外川 昌彦 (東京外国語大学)		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review			
<p>本研究は、バングラデシュの社会運動における市民知識人の対抗行動と特徴に関する研究である。先行研究では、伝統的な知識人の特徴は描かれてきているが、新しい市民知識人たちの対抗行動やその特徴が十分に解明されていない。そこで本研究では、バングラデシュにおける二つの社会運動の事例から、権威的ガバナンスと国家ヘゲモニーに対抗する市民知識人の新しい役割と特徴を描き出そうとした。</p> <p>論文は、6 章で構成されている。第 1 章では研究の背景、目的、課題を示し、第 2 章ではバングラデシュの社会運動の歴史とそこでの知識人の活動の特徴と役割を明らかにした。第 3 章と第 4 章では二つの社会運動を事例として取り上げ、市民知識人の新しい形態の対抗行動や特徴を描いた。第 5 章では、二つのケースにおける市民知識人の活動は、その形態や当事者との関係性において異なりは見られるものの、類似性も見られることを議論した。それは社会運動の中での市民知識人の有機的な関係性、政党や団体の思想や利益の代表としてではなく、個人としての覇権に対する対抗・不服従の意識、科学的・学問的な言説による対抗の態度、批判的思考、市民に対する長期間のたゆまないモラル的なサポートである。第 6 章では、本論文の学術的意義の確認、研究の限界および今後の展望を示した。</p> <p>本論文は、以下の諸点が評価された。1) 文化人類学的手法を用いた長期間の緻密なフィールドワークに基づく分析と結果であること、2) 二つの異なる社会運動を事例として、市民知識人の社会運動における新しい知識人の特徴の差異と類似性を描いていること、3) 市民知識人の役割と特徴を理解するために一般市民に広くフォーカスグループインタビューを行い、市民の社会運動への参画意識と市民知識人の影響を市民側からの言説で描いていること。</p> <p>なお、申請者はこれまで、国際ジャーナルの査読つき論文 2 編を公表している。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士 (学術) の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			